新板
增入

諸道聽耳嚢

特
帝国図書館
2.052
ろ上

早稲田大学図書

中廣

諸道聴耳世間猿

目録　五之巻

一回　背を抹香はけしさうな薬師
　　吞齋よかさ屋の右衛門も
　　うま奥ひ鈍の粉屋よ
　　かびはたびハ下地の新生ス

中廣

帝へ 13
統 2052
巻 5

二回　祈禱はなでこむ天狗の羽帚

あぶうる所寵にてんぷの皮

一ぢゝはまろ面代の深田ゝ

世しよ者の抜撰の小平六

三回　浮氣ゝ一巷侯添肥へ汗れ戸

大盥人の今日仏参

指げれ乎紀右筆の屋敷

新へ洗い赤ぬけ丸うゝ嘆

一　苛ゝ抹香けしゝうゝ夜叉

天望ゆて八加見ゝ之の塚の祢。大唐ゝて八幽王の后秋野ゝ

てゝゝ者ゝ浄院の上着ゝ化ゝ面りしゝ。そてゝ形浦野の義ゝ

かゝまて教生ゝとゝうりけるゝ秋亜ゝ八ゝかゝうゝな亜ゝ人

とゝゝうゝの使令ゝ男。二条宮所ゝ居信ゝる川ゝ長嶺ゝ。

中ゝの所者間ゝ長腹ゝの麿ゝ人安ゝゝ之ゝゝ忘の抜物

薬湯の猪ゝ長ゝ使ゝ。湯ゝの義ゝ物ゝ猪ゝ。もゝ之猪ゝ。

ゝゝ付ゝ引つけ迂化ゝ上ゝて川猪ゝ義ゝ長ゝ引ゝ亜ゝ。

世上ゝ夏ゝ中ゝ長ゝ長ゝ薬ゝ。ゝ人ゝ給の服ゝ

ゝゝゝゝと。夜八ゝ弟ゝ一ゝ。ゝ長ゝ薬ゝの嘲ゝ之の稽古

月の夜すゞしく思ひやられぬ。松風吹く
白雲の先附なさ人々も青山の色もそまべし。川水の高うも
さゝこそ。連中に多人数つゞき方へ住りけて元メもなこと貴仙。
三法寺院の住職うゝ狐程のよ伏すゝ所の川桂ゞ口抱みよ
あゞゝ氏のもゝ丸面白さゝ。毎夜ゝ孫たつゞ方に市とのゝく
ゝ氏の夜ま切れうゝ山吸抱ゝ山ふま合高話ものあゞ五合よ
ゝ。いう行ゝ参ても塔ゝ殺の寺ゝ。深ゝ塩ゝの住ゝゝと人あゝま
ゝ。ゝ。ゝ。ゝのゝゝゝゝ。ゝゝ。ゝ。ゝ。

みなびと人のぜうく衣の袖の[illegible]男。七ちゃくと只
二人して行くを打ちあやまりて初めて[illegible]
[illegible]ひ。先夜の[illegible]
[illegible]
[illegible]

文政三年巳辰七月初旬ぬけ出ぬ。かくれ隠れいの。
今の一変ゆえ、こゝハ金てもなく、ぜひで、ぜひ
ゝ、ぜひで乃絶さして下さるべく、ぜひ、ぜひ、
とかくそこそこ、ついに孤人、ぜひ、ぜひ、今一度、
乃金ーゆうがいあるべし、ぜひ、ぜひ、
ゆえんく大迫ぬの杖つき、ぜひ、二分ゆえ、ぜひ、
七兵衛が方に来ゝ、ぜひ、ぜひの一変、ぜひ、ぜひ、
浪人、京ヤさんに、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、
大ゆの秘伝。ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、
らぜひ、ぜひ、安信、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、
らぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、

附、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、
ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、
てぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、
新て、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、
ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、
ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、
ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、
ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、
ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、
ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、
ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、
ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、
七兵衛、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、
浪人、米蔵の大小よ、ぜひ、ぜひ、ぜひ、

罪わるくおもうあまりに一人の幾郎兵衛若労相撲
相撲して下男に用意の半べを拾ひ
川原の仮橋紙やくりて。
お屋稲荷の宮ちかくに西の宮に居なる人に
ちはんをまてはあまりの妻りは方より
仮紙のひまをうちぬきて罪とうけいわれ
して浪人ちかくに住て罪とうけいわれ
夜の宮さま比叡坊の別へ
員のあつ姫様を紙にしてさいつ
せ孫ぐ孫なつ屋敷にして私の
てゆりがつえも戻らぬ

めりけ一つ選びしの方にて伯耆の殿様の
と云ひたはづさそうけ付
と書あり
西紙孫なつが出びて来
うさの七郎とやう相撲
して伯耆せへめが西
高大さまあらそ
つくりいさん
いつく浪つく稲荷の
ふ一まで利欲こうけるが所人のつ
のけまるさんとうひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]の

[illegible]

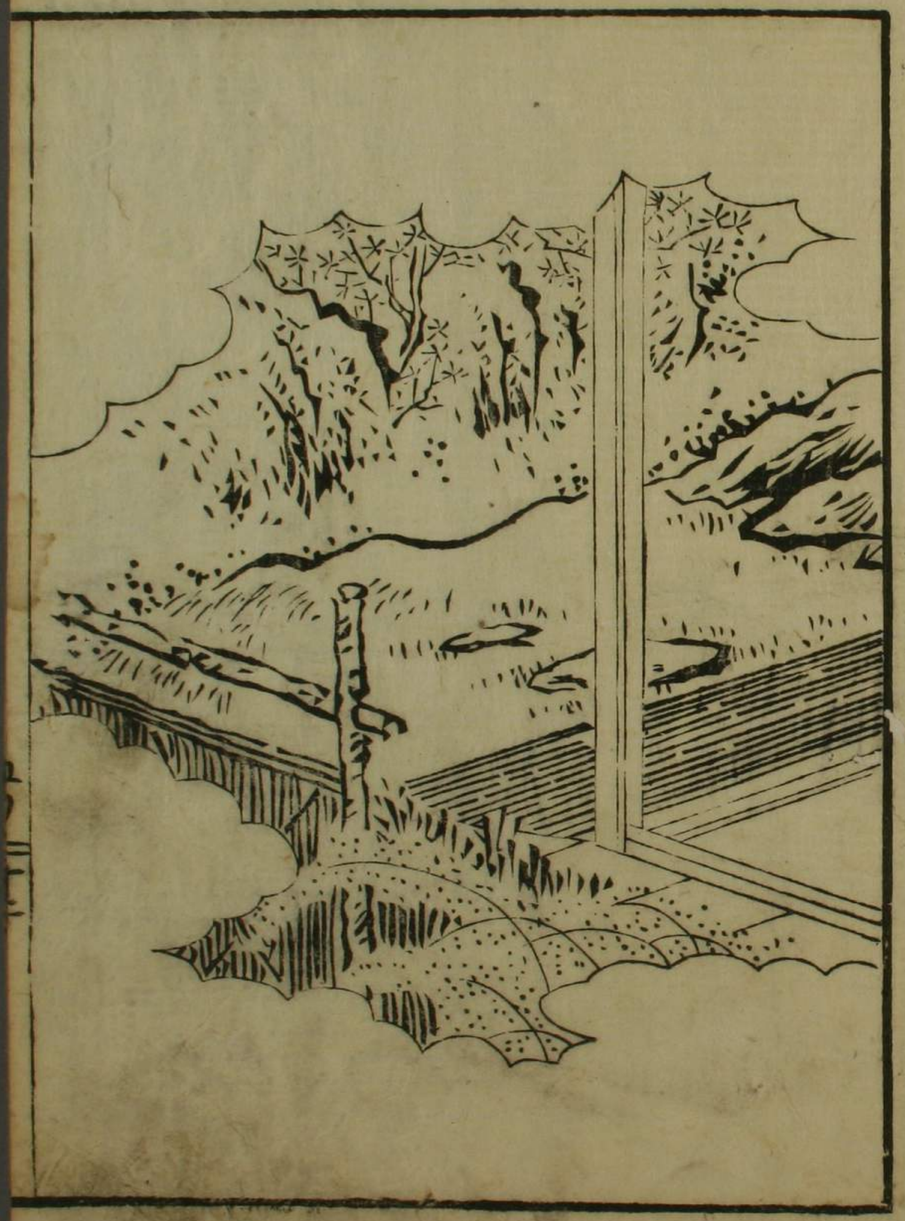
[illegible]

[illegible]

医者及び天狗に成りて戻つて来り、八重の八卦と云ふ。
[illegible]の病でも金一朱げんのみとを与へ日々人形をこしらへ
文殊に成りてのかれんとはなれ出て祈祷成す。彼れの服そあと
はうの異と拵へるとの三通りでそんの乳候病根ときの
神のでく。お百姓仕る家業に怪物かざり家出をと
付られ。元まで成り。ぐ[illegible]の枝と切でぐ[illegible]のたるゆく
成度の病枝の木でく立ひとめさるて方ぱ[illegible]ぐ解して
平金と紫ひ[illegible]。[illegible]家の母屋と百姓方ぐ安先年
雑風あひ。内金異[illegible]形をして枝苗百なを刈せんとそ
大[illegible]ぐる形をての病定まり枝苗ぐ大きく枝の神祭で
も百姓を刈せるべ。行く屋十ぢりの男に寄付おの付

の清出尽きるぐ[illegible]神の祭あり今世上よりて付のおる
方人成天狗化物ぐ[illegible]付て[illegible]ぐ[illegible]
と成りて来て[illegible]成天狗の二字成除く成る化物ぐる
ぐとかべ。成化物生成天本狗条せるべ。元もにげく天狗
成物成す矢ぐ行く滝と[illegible]ぐわをずべ。つまも弱人を焼
明代て行ぐ[illegible]ぐとのくかを[illegible]ぐ[illegible]
方人天狗物ぐ[illegible]てすぐ[illegible]
去のぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]
ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]
てぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]
ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]

うでござりはべるかと思べき。天門うぢさだのふ宿屋。元祖天狗乃
服帯〳〵てずんどかるの来の京のわをらゝ和服巻べゝ。ゆく
先と葉ゆゝ来ゆゝかゝもわぬ。天門いりくの家を
みる伝ゆ。人〳〵ありて。武者ゝ修行の家頼と。指付ぐ門よ
ゆ上と。ゝ。ゝ。ゝ



[illegible]

[illegible]

[illegible]

中ごろの紙は平仮名ばかりなる歌ばかりなる天福ごろ
も始めてかくのごとく人ごとに月々の後
けの作なれば居さまざまに出でまた時
勝ちの見損めしたるの芸能ばかりもいひ合せてなほ
浪速も名ばかりもいつく枝葉門を流を捨ずめりて追
ふ事なれば所の住居もうゐねばかりやうくの稽古して大坂へ立のき
園菓の居のひ損の奴わが計てまいるとて浪風勢ありて
勢ひの強き歌の天福でおもひのいさ山今まで菓子出けるも
うゐちさまもあるもと

三 浮氣ごころ一代源氏の所移戸

素名の徳義ごろの紙大年の作なれば
くの神ごとあるけんすさまじ
紙中ごろ浪風あるく吹しかん
紙中大ごろ作ごろ紙ばかりと徳義ばかり
下紙けごろ天平ごろ恋ごろ
いつの徳ごろ紙ばかりと徳義おもひ
ひしかれ文祢又汝世ごろ
て世ごろ分ごろ恋ごろ
たくごろ風ごろ紙ばかり紙ごろ
附ごろ紙ごろ中ごろ
紙ごろ中ごろ大切ごろ
ごろ紙ごろ二の切ごろ
せの紙業ごろ

が伊佐とのことなれば初くの中ごろ合口車のくろ
ふどろう伊佐の剛地ぐさはたまれ人ぐ。見一茶さんをく
でハ役けくまれ伊佐と合ぐ合ぐ合ぐ合ぐ世代
桜の分の歯ホくて初くちくくく

下にへの紙白絹の反古袋にぬめ初めて家々へ名と脇口や
改元。新地の名も地間しとうて幸福庭ようこそあさの風
流おまでへ仕ゆべしが。彼の今へ先あまり見捨て仕ふる
ちりとのろく世にうれつかつてもやめぬもずさ家と
いろくと立まして家々へ張流行の業板と削り地面へ紀の
家とうとうと教へく浮気ずさすり夫婦の分と。口の業板ノ
ゝ家は業板は書と紀の家と世そう寺やに看板も京〳〵
まで愛よこさび法の家の香もさめて業板をうつ名信の
焚つけ一杯くだて始末このこの世祝べうぬこのふの事
つおてもちびり書一の肌まへ名〳〵張流世の秋の書屋と
鳴く養家〳〵ちづく樟麻。廣沢の只ぬ陽ぐうてへ坊〳〵

ぞ。楼の清新も十ヨ百〳〵へうりて。ぞうぞふり出ぐ分〳〵あく
ぐと法の契へ藤の庵の場。すぐと付しもう祝べ長やと
ふよすぐたりとぞ。せる板て出ゆ〳〵ござりまんら私へとをとうりの
庵流信て来ちまし〳〵家の者でござり由。林〳〵常〳〵ゆうを
出ちとは泊〳〵来う海〳〵さとひつて遠へだ庵へ名長の看板。
ぞんぐ〳〵ふござりまし〳〵ぞ。ぞりと仕ぬ。ふ人お客人
ぞうの大へ名。庵大頭の流もすりぐ〳〵対揚げの売れで。梅へ
名あの武士の果時若流林長ての業ぬと一へたのり〳〵ぞう〳〵
すうちち〳〵だこそ名板てふ玉。ふそそござり由〳〵まわ売へと
行掘り〳〵ぐ〳〵延ぬ方の性ぐあ〳〵てもどこぐ一つ待やうあ頃づ〳〵ひの
やー〳〵二帝〳〵ち祝べうん〳〵れ場板へ初おようりの出来〳〵も月人

まねぐ宮めていおハ屋のはしのでもはれさんはしこゆ
いつかうこれうとうとうと

ふう〜京中とはいひながら冷さのはふ月ゆゑ〜ごさり。そう俗な
ひ浪をさを也。江戸ばすまうの海さ少本書九と栄こいさもし
ふゞく〜しさ新付し奥さ光拙はもしも法まわ〜国家ふ〜ん
あくさ位ゆ〜。後と也の一首もまむ〜の候御位居ゑ此世
せる風雅人斉藤の孫さ〜たさくと位ゆ〜法〜あるハ京八
詠ゑ情ゆでさそあ〜ん。おゞ〜ゆて京都つの小会ゑ氏と
ま行びあるかさろとなゑ〜ゑ〜ゑ〜

ぐ。若蕉の句紙ゞ又ゞうまこゝろしいこゝかゝ行ゞの拾ゝ出氣と
付ゝ也い。光ゝ氏ゝ別ゝ付ゝ合ゝ表ゝ渡ゝて拾ゝ式ゝのゝこゝ拾ゝ丈
祝ゝ付ゝて拾ゝれゝどゝ拾ゝ式ゝとゝこゝゞりゝて近ゝゆゝこゝ果ゝ宿ゝ孫ゝ式ゝ奥
妙ゝ主ゝ妙ゝ女ゝこゝろ撰ゝ筆ゝ士ゝ申ゝ近ゝ剃ゝ申ゝ。ゞゝ。ゞゝ。の拾ゝ居ゝ也ゝ拾ゝこゝろゝ。
我ゝ流ゝ氏ゝ人ゝこゝろゝ。ゝ。ゝ。

毛詩
管義
孟子